

作文Ⅱ

注意

解答用紙の決められた場所に書きましょう。

受検番号

放送を聞いて、次の1、2、3のことについて書きましょう。

- 1 小学生のころに、辻さんがバイオリンの練習で学んだことは、どのようなことですか。書きましょう。
- 2 辻さんは、話の中で「音楽を通じて世界を学ぶ」といっていますが、どのようなことですか。書きましょう。
- 3 辻さんの話の中で、ひとつだけ質問できるとしたら、あなたはどのようなことをたずねますか。書きましょう。

二 いろいろな動物や植物の観察から、その体内には時刻を知る能力やしくみがあることが知られています。この能力やしくみを「体内時計」といいます。

次の【A】は、季節を知って移動するわたり鳥の様子について書かれた文章です。【B】は、線部についての実験の様子をまとめた資料です。【A】【B】を読んで、後の1、2、3のことについて書きましょう。

【A】

鳥のわたりにも、体内時計が役立っていると考えられています。日本のわたり鳥には、ツバメのように春、日本にやってきて、ひなをそだて、秋、さむくなつて昆虫などのえさになるものが少なくなると、あたたかい南方へわたっていく。「夏鳥」と、ナベヅルやマガモのように、日本より北のカムチャツカやシベリアで、夏のあいだひなをそだて、秋になつてえさが少なくなると日本にわたってきて、冬をすゝす「冬鳥」とがあります。目的地向復するとちゆう、日本に立ちよつて、からだをやすめたり、えさを補給したりする鳥は「旅鳥」といいます。

夏鳥のツツドリは、日本とオーストラリア大陸やインドネシアの島々のあいだを往復します。

ホッキョクアジサシという鳥は、日本にはあられませんが、北極近くのグリーンランドやラップランド半島に六月ごろ帰つて、ひなをそだて、短い夏のおわる八月末には、大西洋を横切つて一月か二月には、南アメリカの南端から、南氷洋にまで達します。その距離は、往復三万五〇〇〇キロメートルにもなり、往復旅行に一年のうち約四〇週間をついやします。

大旅行をして、ちゃんと目的地につくわたり鳥には、どんな能力がそなわっているのでしょうか？

わたり鳥は、太陽をコンパスとしてつかい、体内時計で時刻をはかつて、方向を知るらしいことが、多くの研究からわかってきました。

わたり鳥のホシムクドリなどの鳥のむねは、よく晴れた、太陽がはつきりみえる日には、大部分の鳥がおなじ方向にとびたつていきます。しかし、くもつて太陽のよくみえない日には、とび方向がばらばらになつてしまします。これだけでも、鳥が、太陽をめじるしにして、方向を決めているらしいことがわかります。

もつとくわしい研究の結果、つぎのようなことがわかりました。鳥は太陽をしばらくみていて、その方向をたしかめます。それから自分の体内時計で、そのときの時刻を知り、正午ごろになつたら、太陽がどのへんにいくかを推しはかることができるらしいのです。

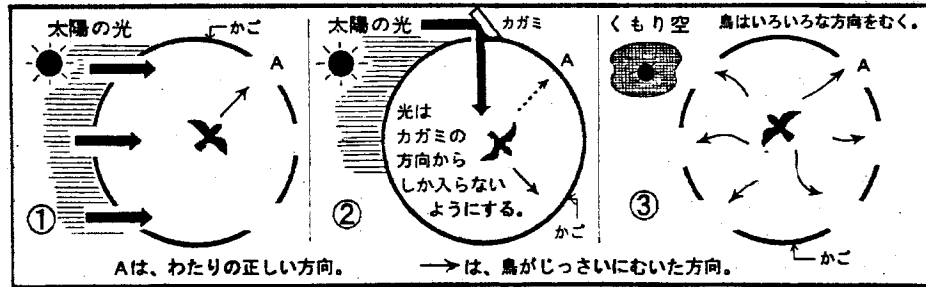
正午の太陽は、ほぼま南にきますから、南の方向がわかることになり、それをもとに、自分のすすみたい方向をきめることができます。

(真船和夫の文章による。)

(注) コンパスは方向を知る道具。

【B】ホシムクドリの実験 (行田哲夫「わたり鳥のひみつ」により作成)

- ①よくはれた日、わたりのときをむかえたホシムクドリをかごにいれて、外にだしておく。すると、一定の方向Aをむいた。
- ②
- ③くもり空になると、ホシムクドリのむきがまちまちになった。



1 「夏鳥」と「冬鳥」は、それぞれどのように夏を過しているのでしょうか。「夏鳥」「冬鳥」の共通するところとちがうところを、わかるように書きましょう。

2 【B】のホシムクドリの実験で、図②ではどのようなことをしたのでしょう。また、そのときのホシムクドリはどのような動きをしたと考えられますか。図①と③のちがいがわかるように、②の の中に書きましょう。

3 あなたも、動物や植物のもつ能力やしくみのすばらしさを感じたことがあるでしょう。そのときの様子やあなたがどのように感じたかを、わかりやすく説明しましょう。また、そのことについて、もつと知りたいこともあわせて、百四十字から二百字以内で書きましょう。

作文Ⅱ 一 聞き取り問題

【放送台本】

これから、バイオリン奏者の辻久子さんが、ある小学校で子どもたちに話をされた内容の一部を放送します。

この放送を聞いて、後の1、2、3のことについて書きましょう。

まず1、2、3を自分で読みましょう。(30秒間) 読めましたか。(5秒間)

聞いている間にメモを取ってもかまいません。

ただし、放送は、1回のみで繰り返しません。(3秒間)

それでは、始めます。

私がバイオリンを始めたのは、小学一年生のときでした。父がバイオリン奏者だったので始めることにはまったく抵抗はありませんでした。むしろ四分の一の大きさのバイオリンを手にして、うれしい気持ちでいっぱいでした。

ところがしばらくして、「これはエライことになったわ」と思ったのです。はじめは五分程度の練習だったのですが、練習は毎日続け、だんだんその時間も長くなりました。

バイオリンには四本の弦があるのですが、まず、その四本すべての弦を鳴らすのではなく、一本の弦を澄んだ音色できれいにひけるまで、繰り返し繰り返し、練習させられました。

最初は、バイオリンを持ってきちんと構えることさえできず、「そっち向いたらあかん」「腕が下がると」と父の手が伸びて、弓を持つ手や姿勢を直されました。

この時に学んだのが集中力です。ちょっと何かしたらすぐ飽きて別のことを始めるというのは絶対だめで、一つのことをきっちり最後までやるのが大切です。何か一つ集中してできるものがあれば自信もつくし、必ず学校の勉強も集中してできますよ。

平成5年、私は音楽を学ぶ若い人たちを指導するための塾を作りました。やって来る人みんなが音楽家を目指しているわけではないのです。でも、それはとてもいいことだと思いますよ。音楽を通じて世界を学ぶことができるのですからね。

世界を学ぶということは、「いろんな視点からものごとを見ることができるようになる」ということです。

私の場合、バラの花を見ても「きれいだな」で終わりにせず、この美しさをバイオリンで表現するにはどうすればよいかと、自分の世界に置きかえてものごとを見るようになってきたのです。

音楽は人生のパートナー。心をより豊かにしてくれるのも音楽です。音楽は喜びを増し、怒りを静め、悲しみを癒し、楽しさをひろげてくれます。

何かをやり続けるためには苦勞をしなければなりません。困難な道を歩むのは苦しいことですが、苦勞してきた人は、大人になって振りかえった時、必ず満足することでしょう。

「コツコツ気長になんてやってられへんわ」と思うかもしれませんがね。でも、努力なしに楽しいことだけというのは不可能だと、頭に入れておいてください。

だからといって、ずっとまじめばかりでは疲れてしまいます。何もしない時間をつくってください。そういうとき、何か心に浮かぶ思いがあるはずですよ。たとえば、「さっきの練習でああすればよかった」とか、「授業で先生はああ言ってはったけど、こんな疑問が出てきた」とか。そんなふうに、自分を振りかえることも、心にゆとりがないとできないことですからね。

これで放送を終わります。次に進みなさい。